(3)道路等の整備状況

・都市計画道路の整備状況

都市計画道路は，多様な機能を有する最も基幹的な都市施設として都市計画法に基づいて計画決定された道路である。

調布市内では，延長約５７ｋｍの都市計画道路を計画決定しており，整備率は約５１％である。このうち，約２８ｋｍの都市計画道路が未整備となっている。（平成２７年度末現在）

また，「多摩地域における都市計画道路の整備方針（第三次事業化計画）」において，平成１８年度から平成２７年度までの間で優先的に整備すべき路線として，下図の路線（東京都施行４路線，調布市施行１０路線）を位置付けたが，調布市施行の路線で事業に着手したのは，調布３・４・２８号線，調布３・４・３２号線，調布３・４・３３号線の３路線であり，他に３路線が準備段階となっている。

計画延長	約57km
完成延長	約29km
整備率	約51%

図　調布市の都市計画道路

出典：調布のみちづくり　都市計画道路の整備方針（第三次事業化計画）（平成２６年１１月，調布市）

・生活道路の整備状況

生活道路は，都市計画道路などの幹線道路と地区の地先道路（建築敷地が接する前面道路）の中間に位置し，地区の施設を連絡し，通勤・通学や買い物などで移動する際に利用する日常生活に密接な関わりをもつ道路である。

調布市では，「調布市生活道路網計画」において，計画幅員が６ｍ～１２ｍの生活道路網を計画しており，計画延長の合計は約１２３ｋｍ，平成２７年度末現在の整備率は約３３％である。

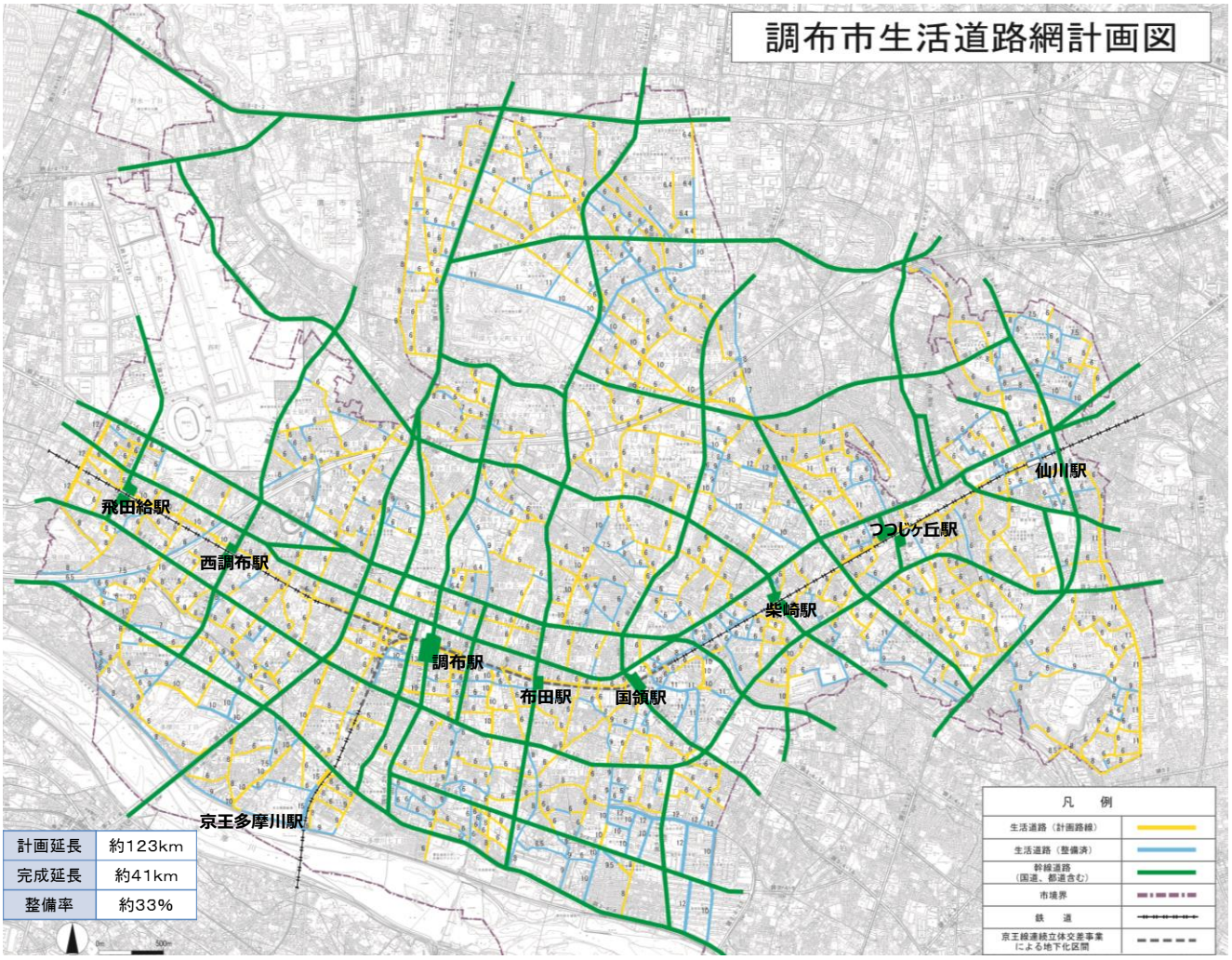


図　調布市生活道路網計画図

出典：調布のみちづくり～生活道路ネットワークの形成に向けて～（平成２５年５月，調布市）

・狭あい道路の整備状況

狭あい道路とは，建築基準法第４２条第２項（以下「２項道路」という。）に該当する公道である。

狭あい道路には，通常の車両通行はもとより，災害時における緊急車両の通行に支障をきたすことや，日照・通風が阻害され生活環境が悪化するなどの問題がある。

建築基準法により２項道路に接する敷地で建築行為を行う際は，道路中心線から２ｍのセットバックが必要である。

調布市では，セットバックする際の，測量，登記，道路工事等にかかる費用を市が負担する事業（狭あい道路拡幅整備事業）を実施している。

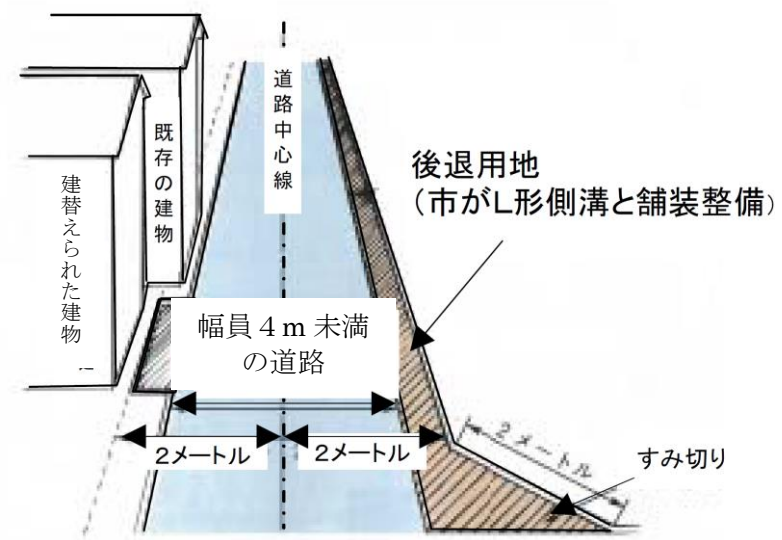
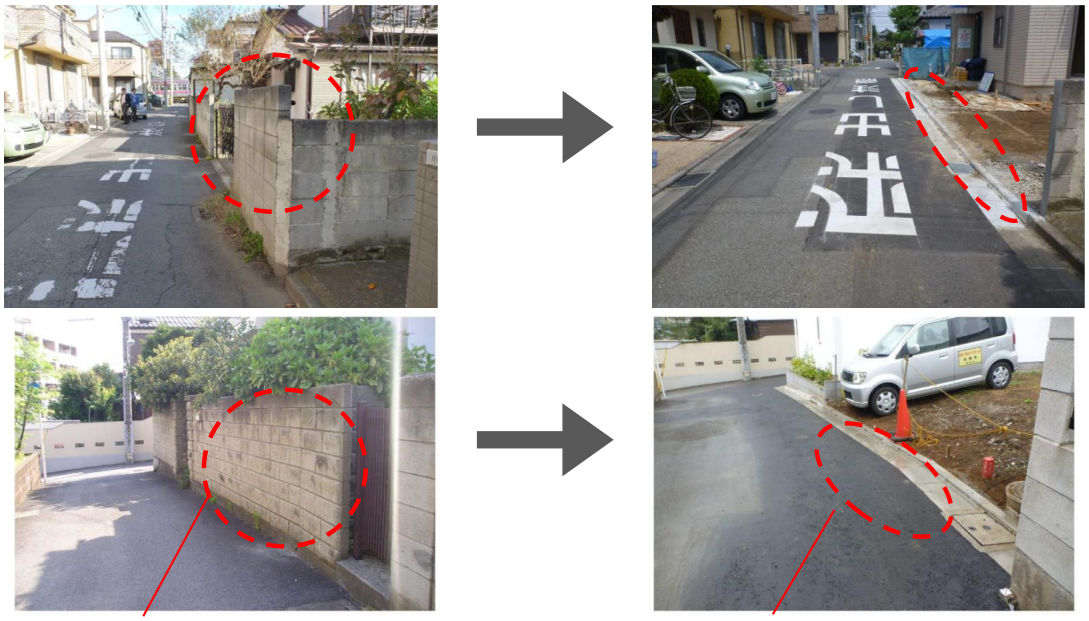


図　狭あい道路イメージ

出典：調布市狭あい道路拡幅整備事業



・塀等の除却費用を助成

・舗装・側溝等を市が整備
・測量・登記を市が実施

図　狭あい道路整備状況

出典：調布市内部資料

・東京外かく環状道路（関越～東名）

外環については，昭和４１年７月に都市計画決定，平成１９年４月に高架方式から地下方式に都市計画を変更，平成２１年５月に整備計画を策定し，事業化されている。

三鷹市と世田谷区境付近に東八道路インターチェンジ（仮称）が設置される予定であり，アクセス道路を含めたインターチェンジ周辺の道路ネットワークの整備として，調布３・４・９号線，調布３・４・１０号線，調布３・４・１７号線，調布３・４・１８号線の４路線を位置付けている。

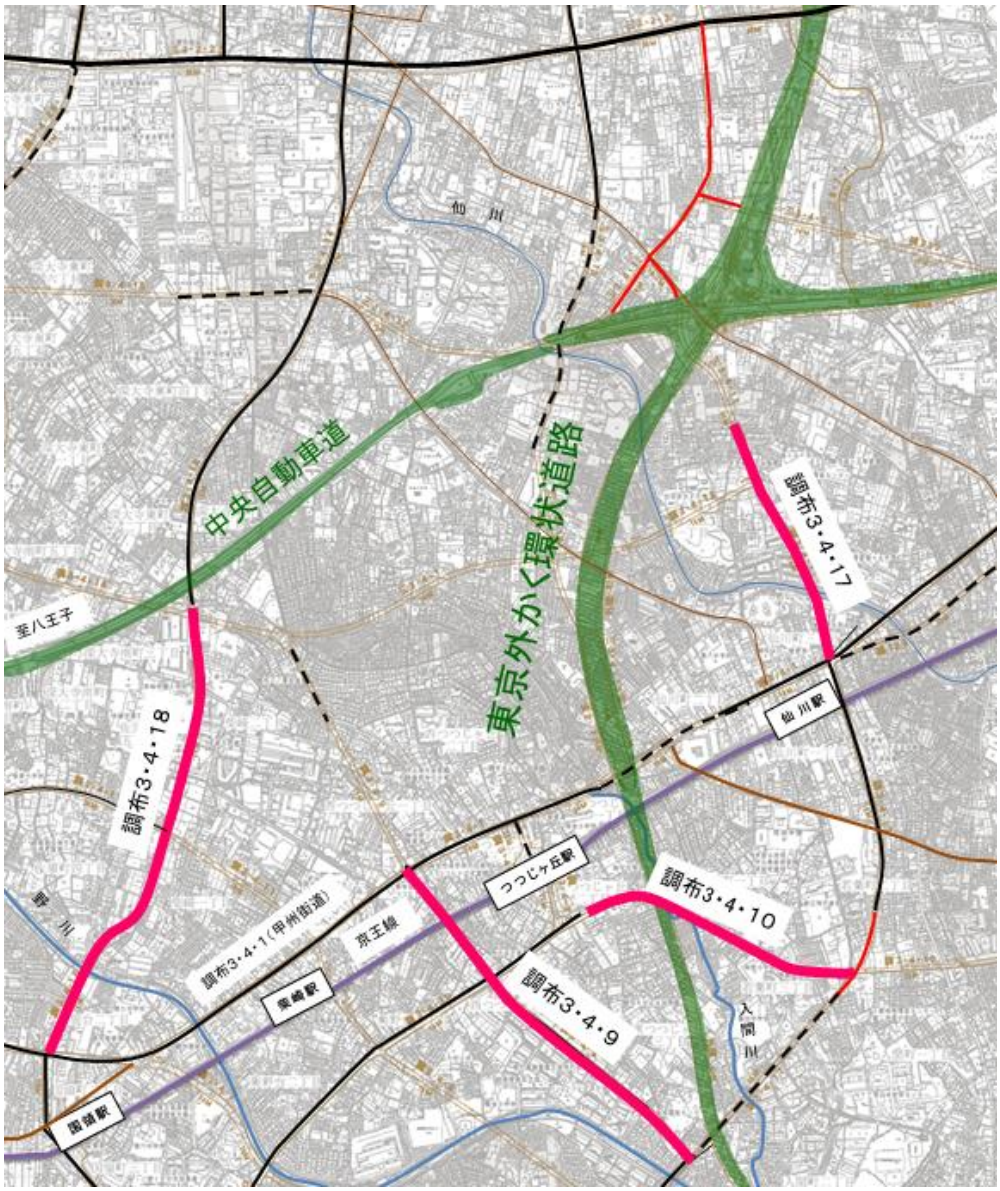


図　東京外かく環状道路（関越～東名）（調布市周辺）

資料：調布市内部資料を基に作成

・京王線連続立体交差事業

東京都，調布市及び京王電鉄株式会社は，京王電鉄京王線の柴崎駅付近から西調布駅付近と相模原線の調布駅付近から京王多摩川駅付近にかけて，道路と鉄道との連続立体交差事業を実施した。

京王線の柴崎駅～西調布駅間の約２．８ｋｍの区間と相模原線の調布駅～京王多摩川駅間約０．９ｋｍの区間を地下化することにより，１８箇所の踏切道を解消するとともに，８箇所の都市計画道路を立体化した。

＜事業区間＞　京王線：柴崎駅～西調布駅間，相模原線：調布駅～京王多摩川駅間
＜延長＞　延長　約３．７km
＜事業の流れ＞　平成１４年２月　都市計画決定
平成１５年３月　事業認可を取得
平成１６年９月　工事着手
平成２４年８月　地下化
平成２７年３月　事業完了
＜構造形式＞　地下方式

図　京王線連続立体交差事業の概略平面・断面図

出典：京王電鉄京王線（柴崎駅～西調布駅間）および同相模原線（調布駅～京王多摩川駅間）連続立体交差事業の概要（平成２２年２月）

・中心市街地における駅周辺のまちづくり

中心市街地では，道路交通の円滑化に資する道路網の整備や，各駅を中心にした様々なまちづくり事業が段階的に進められている。

・調布駅エリアでのまちづくり

都市計画道路整備事業，駅前広場整備事業，生活道路・地区施設整備事業，市街地再開発事業，自転車等駐車場整備事業を実施

・布田駅エリアでのまちづくり

都市計画道路整備事業，駅前広場整備事業，生活道路整備事業，土地区画整理事業，自転車等駐車場整備事業を実施

・国領駅エリアでのまちづくり

駅前広場整備事業，住宅市街地総合整備事業，生活道路・地区施設整備事業，市街地再開発事業，自転車等駐車場整備事業を実施

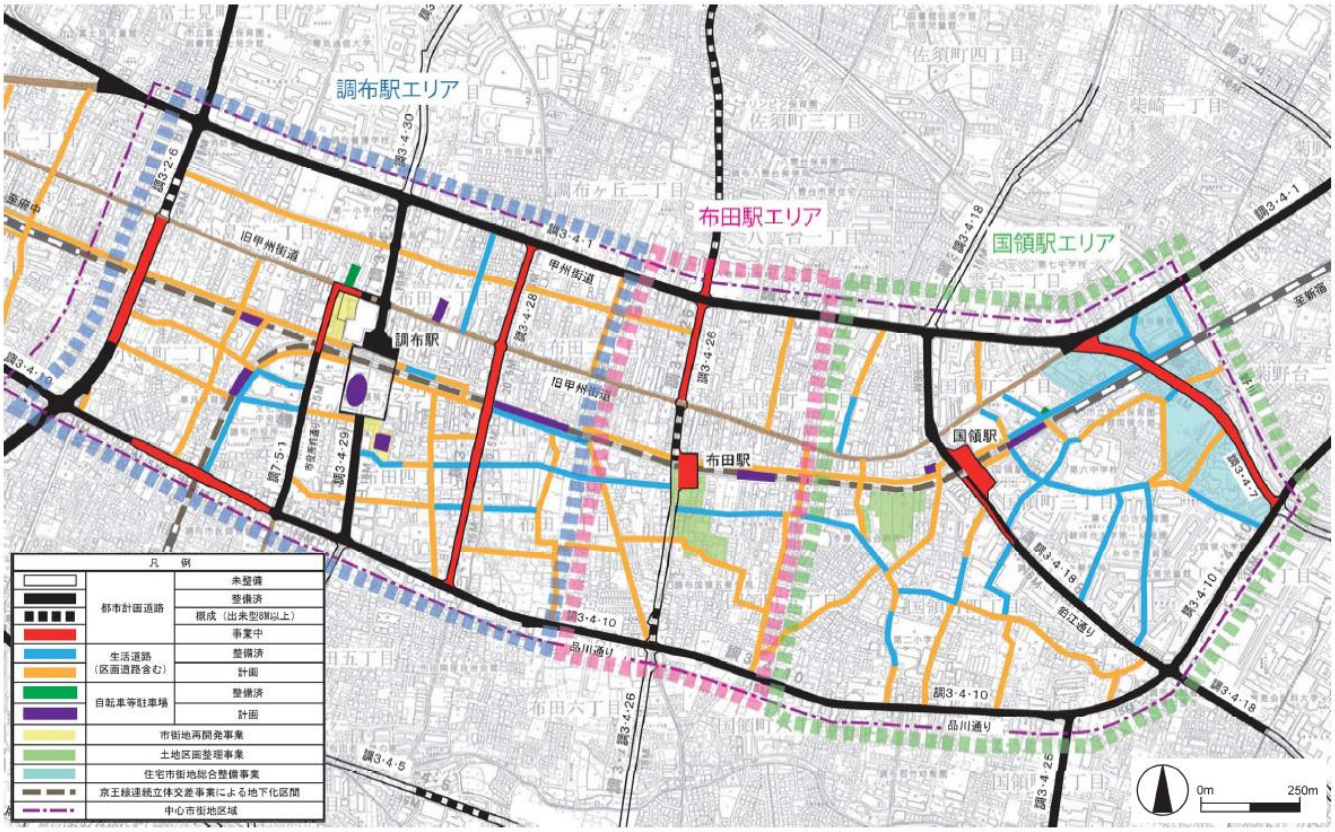


図　中心市街地まちづくりプログラム

出典：中心市街地のまちづくり（平成２７年７月）

・鉄道敷地の整備

京王線連続立体交差事業により創出された鉄道敷地の連続した空間を有効に活用し，にぎわいや交流，うるおい，やすらぎのある都市空間として，鉄道敷地の整備を進めていく。

平成２７年度から平成３６年度までの１０年間で，段階的に整備を進める。

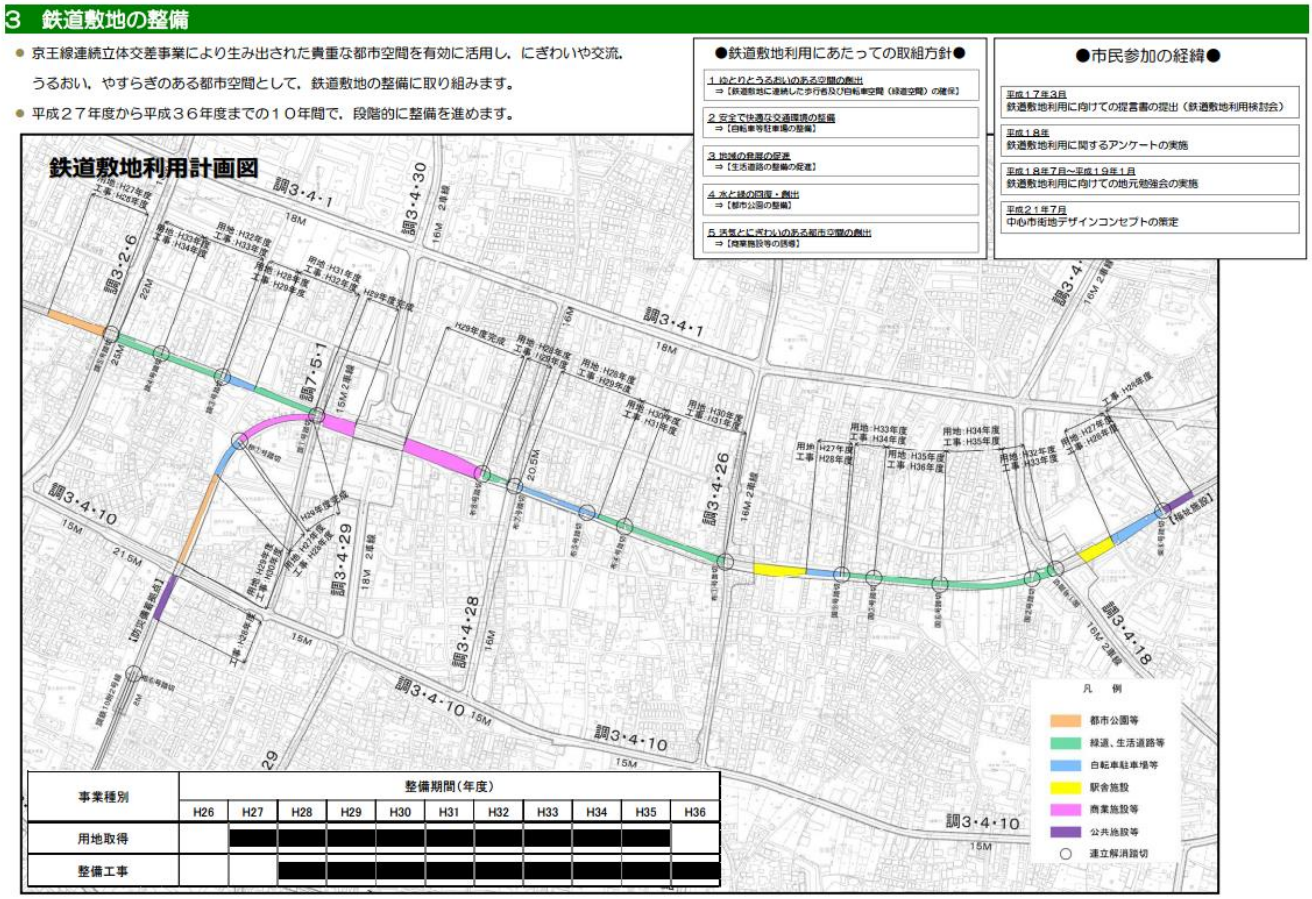


図　鉄道敷地利用計画図

出典：中心市街地のまちづくり（平成２７年７月）